

10月10日

聖書 マルコ12章38～44節  
やもめの献げもの

12:38 イエスはその教えの中でこう言われた。  
「律法学者たちには気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりすることが大好きで、

12:39 また会堂の上席や、宴会の上座が大好きです。

12:40 また、やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをします。こういう人たちは人一倍きびしい罰を受けます。」

12:41 それから、イエスは献金箱に向かってすわり、人々が献金箱へ金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちが大金を投げ入れていた。

12:42 そこへひとりの貧しいやもめが来て、レプタ銅貨を二つ投げ入れた。それは一コドラントに当たる。

12:43 すると、イエスは弟子たちを呼び寄せて、  
こう言われた。「まことに、あなたがたに告げま  
す。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れて  
いたどの人よりもたくさん投げ入れました。

12:44 みなは、あり余る中から投げ入れたの  
に、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、  
生活費の全部を投げ入れたからです。」

通常は創世記から学んでいますが、  
今日はマルコ12章38節～41節から  
みことばを学びたいと思います。  
マナの会でこのところを先週学びました。

今日お読みしましたマルコ12章38～44節は、38～40節、41～44節に分けることができます。前半の律法学者の信仰と後半の貧しいやもめの信仰がコントラストになっています。

神様を信頼しないで、人目ばかりを気にして生きている律法学者、

ただただ神様を見上げ信頼しているやもめの生き方、信仰。

主に信頼する歩みを学んで行きましょう。

礼拝では創世記のアブラハムの生涯を学んでいます。

アブラハムも主を見つめないとき、主に信頼しないとき、人の目を気にするとき、つまずいて失敗、証しにならない事件を起こしています。

マルコ12章から、主を見つめ、信頼する  
信仰を学びたいと思います。

12章には律法学者とイエス様の信仰問答、律法問答があります。

今日の所の少し前の部分、12章28節で律法学者がイエス様に質問しています。すべての中でどれが第一の戒めですか。最も大切な律法は何ですか。

この質問にイエス様は



12:29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

12:31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

律法の本当の目的は、  
主を愛すること、  
隣人を愛することと教えています。

律法の目的、精神を教えた後、  
本当の律法の精神、神様の願っている律法の  
信仰に生きていない、律法学者たちに気をつけ  
なさい、と語っています。

「律法学者たちには気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりすることが大好きで、

12:39 また会堂の上席や、宴会の上座が大好きです。

12:40 また、やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをします。こういう人たちは人一倍きびしい罰を受けます。」

長い衣をまとっている

歩き回っている

広場で挨拶されることが大好き

会堂の上席が大好き。

宴会の上座が大好き。

やもめの家を食いつぶす。

見栄を飾るための長い祈り。

人一倍きびしい罰を受けるのです。

これは本当の神様の目、神様への信頼、  
信仰よりも

人の目、人間の評価ばかりを気にしている律法  
学者の問題です。

聖書を暗記しているなどでは優れていても  
愛すること、人を助けること、主のため、隣人の  
ために喜んで愛の犠牲を払えない律法学者の  
問題です。結果的に人一倍厳しい裁きを受け  
なければなりません。

聖書は、律法は、やもめ、孤児、在留異国人  
を守ること、愛することを教えています。

やもめで在留異国人であった

モアブ人ルツはユダヤの人の畑で落ち穂を拾うこ  
とが許されました。

ここで律法を教える律法学者は、やもめ、弱者  
のことは気にかけず

自分の長い衣のことばかり考えて

貧しいやもめの助け、援助をしていません。

やもめたちを守らず支えず、やもめの家を食い  
尽くしている律法学者は、人一倍厳しい裁きを  
受ける、と語られたイエス様はすべてを献げた貧  
しいやもめの献金の話をしています。

エルサレムの神殿に婦人の庭という庭があり、こ  
こまでは女性が入ることが出来、その門から先  
は男性のユダヤ人しか入れませんでした。

この婦人の庭には女性も男性も入ることが出  
来、ここに13の献金箱が置かれていました。

献金箱のお金を入れる入り口はラツパのように  
開いて入れやすくなっていました。



多くの人に来て献金箱にお金を献げていました。  
た。

その13の献金箱のそばにはユダヤ人がいて献金箱の管理をしていました。

見張っているだけでなく、人が献金をする時、献金者の名前、献金の金額をみんなが聞こえるように大きな声で読み上げていたようです。

〇〇兄、〇〇万円。この読み上げを献金に来る人々、広場にいる人々は聞いていました。

その日はイエス様も弟子たちもそこにいました。  
金持ちが胸を張って献金しました。

〇〇さん、〇〇万円なり。と献金箱管理人は  
金額を読み上げました。

金持ちはその読み上げる声を聞いて満足して  
多くの人を見ている前を、胸を張って献金箱を  
離れて行きました。

本当に神様に献げる、神様を愛する、神様に  
信頼するより、自己アピールのような自己自慢  
の献金で信仰からの献金ではありません。

その後、貧しいやもめが顔を下に向け、レプタ銅貨二つを管理人に手渡しました。

今の通過では5円玉二つ。合計10円。

管理人は庭の広場にいた群衆に聞こえるような大きな声で、このやもめの献金は1コドラント、10円なりと読み上げました。

やもめさんはうつむいて献金箱の前を去って行きました。イエス様はこのやもめの献金を見ておられました。

この管理人の大きな声を聞いて  
イエス様は人々に言われました。

「まことに、あなたがたに告げます。この貧しいや  
もめは、献金箱に投げ入れていたどの人よりも  
たくさん投げ入れました。

12:44 みなは、あり余る中から投げ入れたの  
に、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、  
生活費の全部を投げ入れたからです。」

**律法の目的は何でしょうか。**

## 律法の目的はマタイ7章12節

「7:9 あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。

7:10 また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

7:11 してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましょう。

7:12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。

求めるものにはよいものを惜しまずに与えてくださる天の父なる神様を教えるのが律法であり、そのように主を見上げて生きることが律法の教えとイエス様は教えられました。



長い衣を着て律法を教える、

会堂の上座から教える、

貧しい人にも律法的に献金を強要する

その結果貧しいやもめを食い潰し、律法学者は  
豊かになっていく。

これは律法の本質を教えていることではありません。  
ん。

律法学者の正しい生き方ではありません。

## 律法の本当の目的

7:12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。

12章33節でも12:33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

アブラハムは主に導かれて従って、生まれ故郷を離れました。約束の地に入り、祭壇を築き、主の言葉に聞き従いました。

口のために力いっぱい支援をしました。主を信じて約束の子を待ち、イサクが与えられました。

次回学びますが、そのイサクも主に従ってモリヤの山で献げています。

とことん神様の言葉に従って主に従うこと、主に信頼することの訓練を受けています。

聖書は、又律法は神様からのラブレターと言われ  
れています。

一人子も惜しまないで私たちが愛していただき  
ます。

イエス様こそ、神様の一人子が、この世に  
来、まもなく、私たちの救いのために十字架の道  
を歩もうとしておられます。

貧しいやもめはレプタ銅貨二つを  
献げました。

「貧しい中から、持っているすべてを、  
生きる手立てのすべてを投げ入れた  
からです。」とイエス様はいわれ、  
誰よりも多く投げ入れました、と  
言われました。

イエス様は一人の貧しい無学なやもめを登場させ、神様の愛、神様の言葉、神様の約束を信じ、信頼して生きている姿、信仰を紹介しています。

主をこころから愛してすべてを献げたこのやもめこそ真に律法に生きている証し人と紹介しています。

レプタ銅貨2枚がやもめのすべての財産。

それを全部献げています。

二つあれば、一個、半分を献げることも出来ます。それも大変勇気と信仰と決断のいることでもあります。

でもこのやもめは1枚でなく2枚、すべてを献げています。

動機は一体何だったのでしょうか。

何が生活費のすべてを献げようとの思いになったのでしょうか。

生活費のすべて、有り金のすべてを献げてしまったこのやもめはその晩、何をたべたのでしょうか。翌日はどんな生活であったのでしょうか。



マルコ14章には、ある女の人が純粋で非常に高価なナルドの香油を惜しげもなくイエス様の頭に注いでいます。

部屋中が良い香りでいっぱいになっています。

12章のやもめさんも14章の女の人も  
私たちのためにすべてを献げて十字架の道を歩  
もうとしておられるイエス様に何かをしたい、何か  
しなければと言う思いから、こころからの献げもの  
をしています。

一番大切なことはお金や財産を信頼すること  
や、仕事、地位に信頼することではなく、  
イエス様への信頼であります。

このやもめ、14章の女の方は  
何よりもイエス様を信頼していますと言う証しと  
して、すべての生活費を献げ、大切な香油を献  
げたのです。

律法学者の長い衣や上座、上席は 神様への  
信頼より、お金や財産、地位への信頼を現して  
います。

イエス様はここに登場した貧しいやもめの証しを通して、主に信頼することの確かさ、素晴らしさ、小さな献げものも主はごらんになってくださる。覚えていてくださることを証ししています。

アブラハムは子供が与えられなくても、主を信頼  
して歩んでいました。

大切な一人子イサクを献げる時、信仰を持って  
祭壇の上にイサクを献げました。

その時も主を信じて歩んでいました。

私たちも、ものや人、お金や財産、地位を第一に頼らないで、主ご自身に信頼する信仰、生き方をするように主はもとめておられます。

いつか、お金がなくなる時があるかもしれません。  
ん。

健康がなくなる時があるかもしれません。

居場所がなくなる時が来るかもしれません。

主こそ我が譲りの地、イエス様がともにいてくださる、この信仰に生きられる幸いを主に感謝しましょう。

明日、何が起ころっても、主を信じます、と信仰の告白をあたらにしましょう。



祈り